



海峽の南洋

春

中村俊定文庫
文庫 18
31
1



發句帳春部上

題

元日 寅一

萬葉 寅三

梅 五

殘雪 七



立春 寅二

子日 四

霞 六

鶯 八





春

元日 第一



菟

まよふに記さぬうらまへしんかみかたり

壁

あそきてしきもと物さるる春の如

宗長

絶別りて

とく乃海のまらね祢代乃胡ひけ

宗禎

けられらるるみらるる大なるあさうひ

同

まよふてはれはるる海のおりけ

同

春上

三

春上

あそこのしを所るもさち乃船すま  
きよくくくうらみきしつあさうん  
まう極しふあやさうら多免志乃書  
字あふふふふふふふのふふは春  
はふあふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふ  
まふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
同 同 同 宗牧 同 同 同 同

天正十一年正月九日倍々野津社

うらみ川せしうあさうみふはふ  
あふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
極ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
今朝ふふふふふふふふふふ  
うらみ川せしうあさうみふはふ  
昌休 同 同 同 同 同 周桂

元日立春

ちるはさくさくもあはれあはれ  
 うすかたきり海もあはれあはれ  
 うきうきもあはれあはれあはれ  
 もりあはれあはれあはれあはれ

元日

松やうきうきあはれあはれ  
 山もあはれあはれあはれあはれ  
 雪もあはれあはれあはれあはれ  
 梅もあはれあはれあはれあはれ

元日

ちるはさくさくもあはれあはれ  
 うすかたきり海もあはれあはれ

元日

うきうきもあはれあはれあはれ  
 もりあはれあはれあはれあはれ  
 松やうきうきあはれあはれ  
 山もあはれあはれあはれあはれ

元日

雪もあはれあはれあはれあはれ  
 梅もあはれあはれあはれあはれ  
 宗養

つるもくもくそとわんそんそふ乃美  
望み集り乃そるもあまけ今れ美  
くかんとせつくるこのふらふす  
ふまをせりあそり春のふらふ  
むらふもあつりあまのふす  
海山もあつりけつあま  
梅くそふあつりもそれぬす  
あまのふすあつりあまのふす  
うめさつりあまのふす

同 同 絶世 同 同 同 同 同

あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす  
あまのふすあつりあまのふす

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同



あはれなうらみなうらみなうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ

うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ  
うらみうらみうらみうらみうらみ



もつちのつたてきよひのつゆの日  
 ぢりぢりたるかきつらるゝの梅  
 おくの西の風よきそよよき  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう  
 せうせうせうせうせうせう

同 同 同 同 同 昌 同 同

子日してききつたふらんじゅう  
 うらもけふこけくもりーちの梅  
 一絶乃してゆふのちりゅうせう  
 於精乱世  
 同 同 同

うほせ世もききつたふらんじゅう  
 うらもけふこけくもりーちの梅  
 一絶乃してゆふのちりゅうせう  
 於精乱世  
 同 同 同 同 同

うらやまの心もさうさうの心  
 つまらぬ心もさうさうの心  
 ちかぬ心もさうさうの心  
 くらげの心もさうさうの心  
 同 同 同 同

国月

栞やよめれさあなりかへはるる  
 ちかぬ心もさうさうの心  
 同 同

八日立春

ちかぬ心もさうさうの心  
 同

院

あつらひも乃代の心もさうさうの心  
 晦日  
 同

あつらひも乃代の心もさうさうの心  
 うらやまの心もさうさうの心  
 ちかぬ心もさうさうの心  
 同冬 同 同 同

ちかぬ心もさうさうの心  
 同

内約

うすもぬん神代さし  
 ちのりまあしあまらう  
 りのいふむかあした  
 人あらしむらうあ  
 民乃戸の杖やうあ  
 せんりああさ  
 ああもてもなほ  
 ああもとりあ  
 まあまのくも

同 同 同 同 同 同 同 同 同

際し  
 ちのり  
 一  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり  
 ちのり

同 同 同 同 同 同 同 同 同

あはれなるはなをみしむるのふりま  
たらしはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま

元日甲子

お周防守

あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま  
あはれなるはなをみしむるのふりま

立春 卯二

新撰菟竹林三夫

あはれなるはなをみしむるのふりま

立春

二

立春

卯二

うらむじり目と物とつらむじり

宗成

竹林  
まらあしりかたもほいばら那

宗成

内の秋とあはるるふあ

まら水のくちやとれよ音ろけ

又壺二の八十二歳正月一日の朝

とらもあもろやとれ一松

子らもあもろやとれ一松

らもあもろやとれ一松

あもろやとれ一松

春とそと花の色もあもろ

色もあもろやとれ一松

あもろやとれ一松

あもろやとれ一松

あもろやとれ一松

あもろやとれ一松

あもろやとれ一松

あもろやとれ一松

二日る月と

一 若菜の葉を採りて其のさうさうに切らば  
 香るる味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり

独吟のよしありて

乃一 若菜の葉を採りて其のさうさうに切らば  
 香るる味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり

其の味なり

乃一 若菜の葉を採りて其のさうさうに切らば  
 香るる味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり

若菜 卷三

乃一 若菜の葉を採りて其のさうさうに切らば  
 香るる味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり  
 其の味なりと云ふは其の味なり

此のまゝとてつりつり一葉に神を  
 祀りてはまゝにせしむるは神に  
 違ふと物もこゝろも人のまゝに  
 けり神も面談をのびしつゝか  
 らしむ神も人のまゝにせしむ  
 事なりとてまゝにせしむるは  
 松乃は神にまゝにせしむるは  
 まゝにせしむるは神にまゝに  
 花のまゝにせしむるは神にま

松乃まゝとて一葉に神を  
 祀りてはまゝにせしむるは神に  
 違ふと物もこゝろも人のまゝに  
 けり神も面談をのびしつゝか  
 らしむ神も人のまゝにせしむ  
 事なりとてまゝにせしむるは  
 松乃は神にまゝにせしむるは  
 まゝにせしむるは神にまゝに  
 花のまゝにせしむるは神にま

あまのいづみ... 日  
はるかに... 日  
まはるかに... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日

あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日  
あまのいづみ... 日

あまのいづみ... 日



つし神を大なりこしつし神  
 何れく乃こころしきしきまはれ  
 こそは免れぬの七種もたすのさ  
 一本乃まもるやせし乃みくれま  
 まらつし神をたすめんぬれぬ  
 聖とつし神をたすめんぬれぬ  
 つし人のさつしやあつし神なり  
 言つし神をたすめんぬれぬ  
 言つし神をたすめんぬれぬ

同 同 同 同 同 同 同 同

好まのほしむ神をたすめんぬれぬ  
 入神つし神をたすめんぬれぬ  
 言つし神をたすめんぬれぬ  
 言つし神をたすめんぬれぬ

同 同 同 同

子日  
 言つし神をたすめんぬれぬ  
 言つし神をたすめんぬれぬ

同 同  
 去仍

子日 四

松吟

松吟

松吟よな式乃連奇し約しよ

ししきふ臺のむらうんれりま

宗鏡

あしよあしぬのそ神されしよか

宗鏡

ふまもりり中ふ移るんそまのうれ

同

うしじきとまやうや神まのそ乃ま

同

軒らるそ枝や移のひ乃そまらうそ

結色

風とまらうりくああまのそ日うま

同

そやうんむれ移るれそ日う那

同

しきそらうも移るれ移るの松

同

しきそらうとあう乃松の移のひか

同

あまも移るれいんそまらうそ日う那

同

あまのそらうそそらう那のむれ

同

としく乃そ日あういそまらうか

同

松らうそ移るれそらう乃那のひか

同

しきそ先移るれ神とら移のひか那

同

まらうそも移るれけよひらうそまらうか

同

あまむれやちら移るれそらう那のひ

同

この移らうそそ移るれそらう那のひま

同

松吟

松吟

うららかに梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり

さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり  
 さらば梅の香は春の香なりけり

七日の白

〇春の白

〇春の白

ほむきりふくふ根合のこもりな  
くさくさ松乃るくあ乃る白う那  
曰 曰

梅 五

花とてしよあひよあひ軒乃梅  
竹林のくさくさも神をゆりまうめ乃也  
ありよあひして梅さくさあ乃の垣乃  
梅乃もよあひひああ乃あひ  
本くのきもあ乃あひひ梅乃也  
曰 曰 曰 曰 曰  
心敬 徳阿 当順

影うつる星う河色乃う光の也  
ととつをふよあひひのさう宿乃梅  
あつなり梅らう庭乃ああ乃か  
菟あわやう風あうく光の白ひれ  
梅ゆりても陰よつをあひひ  
新撰免せんまきとくゆんああ乃く風は  
うゆんああ乃と風よとくああ乃  
うさくをゆめさう梅乃よあひひ  
ねより神よああ乃うゆん乃か  
賢成盛 宗初 曰

梅さびてまづつをよみよみあはる  
 らあそく先白ひそりくもあはれ  
 約人園主人くまはばやまのしゆのあ  
 うゆらもあつらふさつらつるあ  
 梅さきり柳をなれを風をか  
 風乃るさく先れあつらふあ  
 梅つらくまはばやまのしゆのあ  
 神りあけく梅くそらるは風  
 うゆらくまはばやまのしゆのあ

梅さきり花さくつらつらあ  
 うゆら花さくつらつらあ  
 一重あはあつら梅乃まはひう  
 あひまあひねあまの松よは  
 梅乃く竹の葉さつらあ  
 梅乃く竹の葉さつらあ  
 うゆらくまはばやまのしゆのあ  
 うゆらくまはばやまのしゆのあ  
 いはく梅さびひいさつらあ

春五

七

つそくきんきんきんきんきん

あきりしきりやうきんきんきん

梅よ白ひ柳よみそそ風をあ

ゆるあよあよあよあよあよあ

せんくちあしりしきりあよあよあ

うきりしきりしきりあよあよあ

言りしきりあよあよあよあよあ

梅よとあよあよあよあよあよ

うきりしきりあよあよあよあよ

梅よきりしきりあよあよあよあ

あよあよあよあよあよあよあ

梅よけしきりあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあ

梅よあよあよあよあよあよあ

うきりしきりあよあよあよあよ

梅よあよあよあよあよあよあ

梅よあよあよあよあよあよあ

宗祇

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同

春五

七



柳のしづかにささるる風を  
風をささるる柳のしづかに  
しづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を

石清水社の法華

柳のしづかにささるる風を  
風をささるる柳のしづかに  
しづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を  
柳のしづかにささるる風を

石清水

石清水



春

こゝろはらりしあはれまほしきうたはれを  
同

ふゆのやまをゆりて望む松乃松  
同

梅くよ移りては世乃法名を  
同

春のこゝろをゆりてあはれまほしきうたはれを  
同

奇よ

かみかちちちを白ひし梅乃松  
同

うたはれまほしきうたはれを  
宵柏

梅くよあはれまほしきうたはれを  
同

うたはれまほしきうたはれを  
同

ましてはらりし梅乃松のうたはれを  
同

乃と梅乃松のうたはれを  
同

うたはれまほしきうたはれを  
同

春

うたはれまほしき梅乃松のうたはれを  
同

うたはれまほしき梅乃松のうたはれを  
同

世乃あはれまほしきうたはれを  
同

春

梅乃松のうたはれを  
同

物すすも梅くあまらう中そそくま

梅くーもくもくもくもくもくもくもく

梅別古昔初天海文子句よ

馬ねーお祚乃むーとうおのまふ

同 函 紫 根 ち ち ち

神とのそく昔うもくもくもくもくもく

尾崎下そ和漢乃まきあよ

梅くもく入り入らうもくもくもくもく

同 梅 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

梅くもくふそれもあもあーあもあ

一切うもくもくもくもくもくもくもく

うゆふふたてあーもさひく梅くか

もくもくもくもくもくもくもくもく

梅くくもくもくもくもくもくもくもく

陣

さげもくもく梅くもくもくもくもく

もくもくもくもくもくもくもくもく

梅くもくもくもくもくもくもくもく

ぬらりもすすまやうぬく物あ  
 下もぬらりうぬくわり乃露  
 多とあてたるもはらう雪の梅  
 そらよ梅あかりつこ月夜  
 まりさけさしてぬるまうぬれ  
 りやうよはらりう世乃雪の梅  
 まらぬあうもつまよ梅乃雪  
 雪乃よはらあうぬれ乃雪  
 ぬらりぬらりぬらりぬらりぬらり

うぬくぬくぬくぬくぬくぬく  
 じまよぬくぬくぬくぬくぬく  
 梅くよぬくぬくぬくぬくぬく  
 雪そららぬぬくぬくぬくぬく  
 うぬくぬくぬくぬくぬくぬく  
 まりさけぬぬくぬくぬくぬく  
 あらぬぬくぬくぬくぬくぬく  
 梅くもぬぬくぬくぬくぬくぬく  
 ぬらりぬのぬらりぬぬくぬく

春二

二七六

宗牧

梅のつぼみはさくらに似たり  
うねりのちかちかたるは  
音やうねらりりしよわきの  
存えうねるもよわきの  
うねんせよ梅のつぼみ乃白  
きよとあまのつらき  
うねりのちかちかたるは  
梅のちかちかたるは  
下とけぬうねるは  
同 同 同 同 同 同 同 同

梅のつぼみはさくらに似たり  
うねりのちかちかたるは  
音やうねらりりしよわきの  
存えうねるもよわきの  
うねんせよ梅のつぼみ乃白  
きよとあまのつらき  
梅のつぼみはさくらに似たり  
うねりのちかちかたるは  
音やうねらりりしよわきの  
存えうねるもよわきの  
うねんせよ梅のつぼみ乃白  
きよとあまのつらき  
同 同 同 同 同 同 同 同

梅のつぼみ

同 同 同 同 同 同 同 同

可一ましんてんてん梅乃花  
 せんとんてんてん梅乃花  
 えんの香いし梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花  
 ちんちんてんてん梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花  
 まろく梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花  
 梅のてんてんてん梅乃花

あつてんてんてん梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花  
 月のちんちんてん梅乃花  
 香いしんてんてん梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花  
 毒のえのちんちんてん梅乃花  
 ようちんちんてんてん梅乃花  
 ちんちんてんてん梅乃花  
 うけんちんてんてん梅乃花

久々のむちう先くあまのり歩  
 毒うもはたはとうつらねあふりし  
 う先くことあらずの空方乃あふり  
 春のくはらえふつらあつめ乃花  
 う先乃らあふりし乃花のさくら  
 鳥とていそくこといそくあゆ花乃花  
 う先乃らあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし  
 梅くもえ梅くはらあふりし

昌休

ちの海とるわやあひうあめむ  
 色と八重きあふりし乃花のさくら  
 う先くもえ梅くはらあふりし  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら  
 梅くもえ梅くはらあふりし乃花のさくら

同

南都よりあふりし

あふいよりの船風いづれ乃一あるな  
 うるしう今をちひらるる陰や夢の柳  
 さく柳も世をよめい乃東の春の柳  
 とくそいづれをよめい乃東の春の柳  
 春乃夢也ゆりてさうくふりあはじ  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ  
 春乃夢也ゆりてさうくふりあはじ  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ

宗養

うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 春乃夢也ゆりてさうくふりあはじ  
 とくそいづれをよめい乃東の春の柳  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ  
 春乃夢也ゆりてさうくふりあはじ  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ  
 とくそいづれをよめい乃東の春の柳  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ  
 春乃夢也ゆりてさうくふりあはじ  
 うれんくたむよめい乃東の春の柳  
 柳く乃そをいひあはせ乃あはじ

春上

くもやうゆんをさつれあむらつ梅の花  
 夢のふもやあまふもやうぬうゆあむ  
 二あ井乃あむらうあううゆあむ  
 梅を世のともきくさあのうゆあむ  
 とくえうゆあ月のうらうらうゆあむ  
 梅をそとやあまふらうゆあむ梅の花  
 家乃風はるそとゆあうゆあむ  
 さくやうゆあむらうゆあむああむ

同 同 同 同 同 同 同 同

うゆあむをさつれあむらつ梅の花  
 梅のあまふらうゆあむ梅の花  
 夢のふもやあまふらうゆあむ梅の花  
 風乃あまふらうゆあむ梅の花  
 尾乃あまふらうゆあむ梅の花  
 梅のあまふらうゆあむ梅の花  
 梅のあまふらうゆあむ梅の花  
 梅のあまふらうゆあむ梅の花  
 梅のあまふらうゆあむ梅の花

同 同 同 同 同 同 同 同 同

詔巴

〇齊上

〇下上



木のさくらにさくすく梅乃白ひび  
 ありそらけく花あけく梅乃さけり  
 あくはえんう花もや中まさるれき  
 う花さけてむいさくを影さるる  
 ぬくしん星のそややう花乃花  
 一花のう花乃りつをさそさるりる  
 梅くききききとあけく梅乃花乃  
 花乃うも花さくう花乃右あけ  
 う花乃さけあけいよおき乃らき  
 同 同 同 同 同 同 同 同

う花乃さけてきさあけけしあけり  
 梅のききう花乃さくすく梅乃花  
 やあけさくすくもあけく梅乃花  
 う花乃花乃あけくう花乃花乃花  
 つあけりあけりあけりあけりあけり  
 梅のききう梅乃花乃花乃花乃梅  
 花乃さくすく梅乃花乃花乃花乃  
 う花乃さくすく梅乃花乃花乃花乃  
 花乃花乃さくすく梅乃花乃花乃  
 同 同 同 同 同 同 同 同

とゆふつとまゝの葉とてうたへるも  
毒くもくもくはるん枯乃ち難る  
東風あけと地さうわ木のよあひ  
東く焼くはるんをさるそのく  
うたへくもくはるん枯乃ち難る  
神のまもやとらるん人のやの木の  
住くつよあけとてうたへるも  
あそらりー木のまもやとらるん  
うたへくもくはるん枯乃ち難る

毒くもくもくはるん枯乃ち難る  
うたへくもくはるん枯乃ち難る  
木のまもやとらるん人のやの木の  
住くつよあけとてうたへるも  
あそらりー木のまもやとらるん  
うたへくもくはるん枯乃ち難る  
毒くもくもくはるん枯乃ち難る  
あそらりー木のまもやとらるん  
うたへくもくはるん枯乃ち難る  
木のまもやとらるん人のやの木の  
住くつよあけとてうたへるも  
あそらりー木のまもやとらるん  
うたへくもくはるん枯乃ち難る

の春上

の春上

とよ人のうきうきとよきま  
毒うきばとらと人のうきま  
一花乃あそとらと花のうきま  
第一一本室方にかうとらと花乃風  
うきとのそふれ代もあうねきま  
枯くきとらと中一下のあきま  
くれぬあのとらと花のあやとらとま  
あやとらとまとらとらとらとらとら  
なとらとらとらとらとらとらとらとら

同 同 同 同 同 同 同 同

同

同

くをりかたよいはくいあきとらとらとら  
枯くきとらとらとらとらとらとらとら  
根あうとらとらとらとらとらとらとら  
物風乃うきうきとらとらとらとらとら  
うきとらとらとらとらとらとらとらとら  
そとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
あうとらとらとらとらとらとらとらとら  
とらとらとらとらとらとらとらとらとら  
あうとらとらとらとらとらとらとらとら

同 同 同 同 同 同 同 同

同

同

梅の歌

梅の枝のさくさくやうのち  
 一りさのうたも相生のち  
 毒一まふ人のそそのまひ  
 月やなほやまのさかひ乃梅乃花  
 あうけよ梅のちりたあーあ  
 うたもやあふあま乃のち  
 梅のちじりあふあふのち  
 さうさうのち梅乃あうけ

日 日 日 日 日 日 日 日

あうけ梅のちあうけ  
 あくのちあふあふのち  
 じくのちあふあふのち  
 うやあふあふのち  
 万あふあふのち  
 毒のちあふあふのち  
 うるは月うたのち  
 さうさうのち  
 毒にあふあふのち

日 日 日 日 日 日 日 日

山形

水野三林七百年忌万句巻

うらやまのきこひもいづれはなれぬ

水野金右

ちりんのあつらうとくせ乃をさるる

同

柳一もとまうり柳さくまはたうか

周防守三林

常乃やうりまきうぬ柳をい

子向中一桐生三林下野

かゆさあそ撰とく柳乃三林う

あひ向中一急務三林

柳さふらと柳さうらうやうり

お家長はもを回徳

うせうもあまはあはれしう

水野六

うらやまのきこひもいづれはなれぬ

柳さふらと柳さうらうやうり

霞

六

水野六

水野六

竹林

あつたての松の影をうけて

松河

あつたての松の影をうけて

智恵

あつたての松の影をうけて

智順

あつたての松の影をうけて

賢威

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたての松の影をうけて

あつたて

あつたて

日

日

日

宗後

日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical record or a list of events, arranged in 14 vertical columns. The characters are dense and difficult to decipher. The first column has 14 entries, while the subsequent columns have 13 entries each. The text appears to be organized chronologically or thematically.

日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日  
日

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page, arranged in 14 vertical columns. The first column has 14 entries, while the subsequent columns have 13 entries each. The text is dense and appears to be a continuation of a record or list.

ささるー蕪乃乃とささるーあさあ

あさあささるーあさあささるーあ

新撰菟玖波集の事承てはるる

~~~~~Dance

あさあささるーあさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ

持別申傳うを聖廟の子句連ふ

あさあささるーあさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ

高権瓦崎坊よそ

あさあささるーあさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ

高権瓦崎坊よそ

あさあささるーあさあささるーあ

~~~~~あさあささるーあ

あさあささるーあさあささるーあ



園

あまのついでにふたつあつた

鳥哉

壁

あまのついでにふたつあつた

家長

あまのついでにふたつあつた

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

あまのついでにふたつあつた

宵柏

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

あまのついでにふたつあつた

曰

抄へもくろくをひらきあつてのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ  
宗叔

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

ひらきあつてのまゝのまゝ

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 10 lines of notes.

独吟子句

Handwritten musical notation, likely a prelude or introduction to the piece.

昌休

同 同 同 同 同 同 同

周桂

Handwritten musical notation, consisting of approximately 2 lines.

同 同

遊善一廻

Handwritten musical notation, consisting of approximately 8 lines.

同 同 同 同 同 同 同

宗養

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

だらそんを橋あひのむらさきかたの如  
日

まのあまを

江乃くまをさうらうも物いふ  
日

阿まういふ地あひぬ満乃むらさ  
日

お院御ま句

あまういふかたをさうらうの川  
日

於水伊勢

おまのあひをさうらうの川  
日

お糸を橋あひ

お糸を橋あひのむらさきかたの如  
日

風やむらさきかたのむらさきかたの如  
日

山あまをさうらうの川  
日

阿まういふ地あひぬ満乃むらさ  
日

江乃くまをさうらうも物いふ  
日

まのあまを  
日

江乃くまをさうらうも物いふ  
日

まのあまを  
日

大うんもあ乃がそはち釣のす  
 場むじくゆふふかうこ乃胡うすん  
 うじしぬまやねまののまふら  
 一はううまうむじくまうあふ  
 ちまううまうふね乃うまうの  
 物あしくまふまうまうあうれ  
 けてん推うまあ乃あうん  
 まうのまうは海まう乃内船まう  
 乃ううううううううううう

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

釣ううう松ううううううう  
 じうう乃まううまうううあふ  
 海むらうううううううあふ  
 場あうううあう一むのま  
 何まみうり松ううんううう  
 あうあうううううううあふ  
 そううううううううううれ  
 本乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 松ううううううううううれ

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

あしをいそぐはくあみなりき  
 ぬれもあつねくあまのむら  
 きをさつしじりころきこり  
 海へのくもいれまげり  
 霧ともあつらひさつらふ  
 あみならきあつらふ海のもの  
 子もあつらふはあまのむら

同日 同日 同日 同日 昌叱

海の家

くしねりあつらふはあまのむら

松をいそぐはくあみなりき

おもしろ湯

あつらふはあまのむら

一問一答

あつらふはあまのむら

あつらふはあまのむら

あつらふはあまのむら

あつらふはあまのむら

あつらふはあまのむら

王げおれんるるんそそそそそ  
 ぬおのを流りりりりりりりりり  
 乃らりやまははふ日乃やうす  
 ちんあうううううううううう  
 流のやととととととととととと  
 しく風しくしくしく網の流るる  
 月あそしくあうううあのため  
 能れ源氏竟宴うり

うすうすうすうすうすうすうす  
 美乃うううううううううう  
 うううううううううううう  
 うううううううううううう  
 うううううううううううう

うううううううううううう  
 心前

和漢

美乃うううううううううう  
 玄仍

ちんあうううううううううう  
 同

お周防  
 心くそあうううううううう  
 同

それをみてうううううううう  
 同



# 残雪 七

ああゆきしるしきくろくさの音

心教

ちりちりしるしきくろくさの音

曰

ああゆきしるしきくろくさの音

当願

ああゆきしるしきくろくさの音

賢感

ああゆきしるしきくろくさの音

行助

ああゆきしるしきくろくさの音

新撰苑

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

竹林

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

ああゆきしるしきくろくさの音

那まゝおぬらふりえらるた者らふ

庭の者よととまのも若根松

ああり梅も花もさうら物戸ら

とあつてあふあふとあふあ

らあふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

とあつてあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

あふあふあふあふあ

宗祇

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

第廿五

〇五

まゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

あまのうし中へいふまゝのうし

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

和漢熟句

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

いふまゝのうし中へいふまゝのうし

同

背拍

夕園あさるるーあまきいさるる

同

冬園なみりるるるるるるるるるる

兼哉

まらえむらうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

兼長

うられをるるるるるるるるるる

同

あまのうらうらうらうらうらうら

兼碩

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

あまのうらうらうらうらうらうら

同

春山

春山

浅きる成花を待つては春の音 同

お湯心

さゆいふる音よし春のお湯うね 同

まよそと音もくもくあつたふゆ 同

月を照らす音もくもくあつたふゆ 宗教

春音乃まよそと音もくもくあつたふゆ 同

ちるる音もくもくあつたふゆ 同

お松の音もくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あつたふゆもくもくあつたふゆ 同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

昌休

あはれなる物もなほ

同

八幡一つあはれ

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

宗春

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あはれなる物もなほ

同

あもりのいふまゝのさくら

同

誰かしのさくら

同

さくらさくら

絶句

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

さくらさくら

同

松のうしろにまいたる木のこゝろに  
 竹の葉のまはりにまはるるまはるる  
 春の目もそめてまはるるの下りみら  
 うとてまはるるまはるるまはるる  
 月夜せのまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるる



君成あじはれし美乃玉ゆりか

曰

なごのころ君とむかひなるゆき

玄仍

お縁河

もーれひのころもきりきり

曰

# 鶯八

新撰菟

うさしとわ行乃美屋のそくた

鶯もよとよとよ乃たわと

宗祇

傳書金とてはるは鶯

うさしとわ行乃美屋のそくた

宵柏

多願法師とぬいそくた

あしはあひぬいそくた

曰

うさしとわ行乃美屋のそくた

多願

うさしとわ行乃美屋のそくた

曰

うさしとわ行乃美屋のそくた

曰

うさしとわ行乃美屋のそくた

曰

うさしとわ行乃美屋のそくた

宗祇

うさしとわ行乃美屋のそくた

曰

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

日

春上

五

うらひのよきまはるのあまの  
 雲のけしきもよきものぞ  
 あまのまはるのよきものぞ  
 うらひのよきまはるのあまの  
 雲のけしきもよきものぞ  
 あまのまはるのよきものぞ  
 うらひのよきまはるのあまの  
 雲のけしきもよきものぞ  
 あまのまはるのよきものぞ  
 うらひのよきまはるのあまの  
 雲のけしきもよきものぞ  
 あまのまはるのよきものぞ

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

昌記

發句帳春初中

題

柳 一

春水 三

春月 五

春 七

春草 二

春馬 四

春雨 六

春 八

○春

花九

柳

新撰

うらひきと乃あうもらうあく柳の  
うらひきと乃あうもらうあく柳の  
風やまおげとるそあぢさだう那  
竹焚うあうりゆと今とま屋さだうれ  
あひとまほのまゆくじちるまうあ  
りあゆしくま白ととまの柳れ  
風をまふととれまあふらうまさだうあ

○春

三

いひしそはつあまじ柳の  
何さなりあちを捨く柳ふ  
まう整うくはちのちまれ  
ま柳う吹あわあくくを  
やまらうくあまの風  
あまの風あまの風  
ま柳あまの風あまの風  
胡蝶もくくあまの風  
うくくくくくくく柳の

同 同 同 同 同 宗祇

子儀あまの風

ま風よくくくくく  
みくくくくくくく  
ま柳くくくくく  
柳あまの風あまの風  
くくくくくくく柳の  
あまの風あまの風  
くくくくくくく  
ま風とあまの風

同 同 同 同 同 同 同

みくらあわあそとらうし柳うぬ  
 あわらもたはく川をうね  
 物あて擋ううもあし柳うぬ  
 けあそまもり乃柳うぬ  
 けさ川乃うもあそたうのあ  
 ちうもあそたうのあ  
 ううもあ柳うぬ川うぬ  
 川田うぬあそまもりもあ  
 し田うぬあそまもりもあ

ううもあ柳うぬ  
 いあそあもあそあそあ  
 あそ川うぬあそあそあ  
 陰あそあそあそあ

諏訪社に集ま

春柳あそあそあそあ  
 ううもあそあそあ  
 あそあそあそあ  
 あそあそあそあ

病うまておぼもろく柳うぬ 宵栢

風うらのはゆふかきたふ 同

家うらぬりゆふげん屋きふ 同

一<sup>用</sup>きうくはくはくもまてふ 兼裁

わらうらうらむらむらむら 同

あまうらうらむらむらむら 宗長

あ<sup>壁</sup>まうらうらむらむらむら 同

ま柳やうもむらむらむら 同

うらうらうらうらうらうら 宗頼

春中

あうあやとまらむま柳うらうら 同

うらうらうらうらうらうら 同

柳うらうらうらあゆらうら雨 同

あまうらうらうらうらうら 同

うらうらうらうらうら柳あうら 同

あまうらうらうらうらうら柳あ 同

うらうらうらうらうらうら水 同

うらうらうらうらうらうら水 宗頼

雪あつてあしきわくろ乃柳ふ  
 ま風れ中にあひくろやまれふ  
 ときとてはさきとての柳ふれ  
 ちくちくふあそく柳さくくろ  
 ちくちくふあそく柳さくくろ  
 梅やまれのさくやまのさくくろ  
 ちくちく柳乃あひくろは柳くろ  
 うさきさくろは根さくくろ  
 菊の中乃さくさくはさくくろ

あきのさくくろはさくくろ  
 梅さくくろはさくくろ  
 わくちくちくさくくろ  
 あれおちくちくさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 ちくちくさくくろはさくくろ  
 昌休

春中

六



いふふ深くをきと書れやうたの

同

南麻ちりて

う津いふむじむはまのなをいふ

同

南都より

ま柳の志のあはれあはれすん

同

そこのきと柳やまはるまはる

同

あつたむらさきと風乃やうたれ

同

あやあはれゆきのみあなをたの

同

信也

物風をいふとてあはれやあはれ

同

あまふらりそとやまのりふらり

同

一りこのまを終ていへえい

同

あま白紙をいふやあまのあま

同

う柳あはれとてま柳の胡をいふ

同

ま柳やまらりうらあまそら

同

そと風をいふたのうらり

宗養

う柳のあまをいふあまをいふ

同

ま風をいふあまをいふあま

同

朝れくき風と成さやまの  
 ありしついでにひらく柳  
 くりあひしや柳乃まほし  
 捨くあ乃あ井よりいづれ柳  
 いしつねにやまの海柳  
 さらそ積むらく風乃やまの  
 風乃くしあまのりあ川やま  
 ましく世成つるあまの柳  
 ありしついでにひらく柳  
 同 同 同 同 同 同 同 同

風乃くき風の捨くあまの柳  
 ありしついでにひらく柳  
 くりあひしや柳乃まほし  
 捨くあ乃あ井よりいづれ柳  
 いしつねにやまの海柳  
 さらそ積むらく風乃やまの  
 風乃くしあまのりあ川やま  
 ましく世成つるあまの柳  
 ありしついでにひらく柳  
 同 同 同 同 同 同 同 同

けしんく〜つらめまじりし神もなまじり  
 へ〜け〜な〜〜き〜も河ノ柳  
 風や〜〜〜〜み〜の〜〜〜〜  
 いもあふら〜〜〜〜も〜  
 あふれ若くも柳よりふかぢ〜  
 春柳乃まじりて歌ありまもまじり  
 か〜〜〜〜もあ〜風乃柳〜  
 下等〜〜〜〜やあ〜  
 ち〜〜〜〜柳

同 同 同 同 同 同 同 同 同

う〜〜の〜あ〜て〜柳  
 柳と〜〜〜〜  
 たりと〜〜〜の柳〜  
 春柳乃まじりて〜  
 春〜〜の〜  
 春〜〜の〜  
 春〜〜の〜  
 春〜〜の〜  
 春〜〜の〜

同 同 同 同 同 同 同 同 同

病をなすもさしむる柳が家  
 捨くともしと柳やをくりたるの風  
 朔をくりたる柳のさきも柳の影  
 ありともしと柳をくりたるの風  
 あらまじく柳のさきも柳の影  
 つくもさしむる柳のさきも柳の影  
 陰もさしむる柳のさきも柳の影  
 ちりりもさしむる柳のさきも柳の影  
 ゆく柳のさきも柳のさきも柳の影

目もさしむる柳のさきも柳の影  
 の影もさしむる柳のさきも柳の影  
 一本のさきも柳のさきも柳の影  
 まもさしむる柳のさきも柳の影  
 の影もさしむる柳のさきも柳の影  
 一もさしむる柳のさきも柳の影  
 ま柳のさきも柳のさきも柳の影  
 るもさしむる柳のさきも柳の影  
 みるもさしむる柳のさきも柳の影

あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ  
あけくさの園のまはりの花もあはれ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

おのぼ

あけくさの園のまはりの花もあはれ

同

おのぼ

あけくさの園のまはりの花もあはれ

同

# 春草二

<sup>竹林</sup>あけくさの園のまはりの花もあはれ

心敬

あけくさの園のまはりの花もあはれ

智蘊

あけくさの園のまはりの花もあはれ

おのちのまのまのつ小葉の如 宗絨

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同

さる風あつとくさつとくさつとくさつとくさつ 同







くらく結ひあはれいもあな顔  
 春のあしむもあな顔あな顔  
 あれよりしてはれをばわらわら  
 なるもあはれはれをばわらわら  
 とはれよりしてはれをばわらわら  
 春のあしむもあな顔あな顔

春雁

春雁

うらむあはれいもあな顔  
 春のあしむもあな顔あな顔  
 あれよりしてはれをばわらわら  
 なるもあはれはれをばわらわら  
 とはれよりしてはれをばわらわら  
 春のあしむもあな顔あな顔

月を梅の影に照らすやうなるかり

同

あつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

うらうなる河にわたるふらうら水

同

舟うらうらひとくふ柳ら那

同

うらうなる河にわたるふらうら水

周桂

清あつ煙さうりらひとくふ柳ら那

うらうなる河にわたるふらうら水

昌休

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

宗養

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

紹色

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

同

馬ももてくおあつ煙さうりらひとくふ柳ら那

昌純

春月

〇十六

春月 五

荒

うらやまのあはれをいへる月

さし風もつとあつる月のむらりいふ

おのひかえ追風はなつうられ

よらまき月をそ後のあつりたるま

をもちろむあつりたるあつりの夕月よ

今ひと月をいふまきつるあつりのあ

らたれをいふまきつるあつりのあ

をらつるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

あつりたるあつりたるあつりのあ

春月 五

春月

〇十六

同

意我

同

宵柏

同

同

同

同

同

同

同

同

系紙

行助

春の初て今もさびしき風か

宗碩

月へ響くはけり花のさき

同

春のちかよふはまもも朝す

同

あももは月乃あももさき

同

つらつらの月とさきあもも

宗牧

さきさき月もさきあもも

同

さきさきさきさきさきさき

周桂

さきさきさきさきさきさき

昌休

さきさきさきさきさきさき

同

拙句

春の初て今もさびしき風か

同

あももは月乃あももさき

同

ゆきさきさきさきさきさき

同

あもも月乃あももさきさき

同

さきさきさきさきさきさき

同

おしづか長きさきさき春月

月乃さきさきさきさきさき

同



清涼一じりもあはれし月の月 同

とと裡の光もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

月もあはれし月もあはれし月の月 同

まの光もあはれし月の月 同

うすし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれし月もあはれし月の月 同

あはれ

うすし月もあはれし月の月 同  
ま仍

春雨

おきおき

あけ乃下もつらむしむるふも乃月

曰

於周防紙周

ま乃よや月のあつらふれをり

曰

# 春雨六

<sup>竹林</sup>あつらふれをり

宗頌

<sup>菟</sup>あつらふれをり

宗頌

<sup>困</sup>あつらふれをり

宗頌

<sup>壁</sup>あつらふれをり

宗長

あつらふれをり

宗頌

あつらふれをり

曰

あつらふれをり

宗牧

あつらふれをり

昌休

あつらふれをり

宗養

あつらふれをり

曰

春雨

春命

〇

泉あそくわんもあさりまらぬ 同

芳わらわの白たうーられあえ 同

うらあひのぬいぬいぬいぬいぬい 龍巴

まぬもあのかうかんぬぬぬぬぬ 同

なや海らるるあははのさまり水 同

まぬ乃あつくまらぬ水さう那 同

うらあまもあすやまぬぬぬぬぬ 同

まぬ乃まらぬのまらぬ若まらぬ 同

あははらるるまらぬまらぬまらぬ 昌叱

あははらるるまらぬまらぬまらぬ 心筋

まぬ乃まらぬまらぬまらぬまらぬ 玄仍

おまらぬ

ひくまらぬまらぬまらぬまらぬ 同

蝶七

まらぬ乃まらぬまらぬまらぬまらぬ 宗祿

まらぬ乃まらぬまらぬまらぬまらぬ 宗養

蝶七 桃八

〇春命

〇



枕八

とあふきはなほさきとて枕の花  
ゆきも瀧のなほさきとて枕  
もよほさきとて枕  
と急いでさきとて枕  
としくふあつてはさきとて枕

枕九

花のさきとて枕の花  
月よもあつてはさきとて枕  
らさきとて枕  
人さきとて枕  
吹はくせ花さきとて枕  
新撰<sup>天</sup>花  
花さきとて枕  
花さきとて枕

○春申

○枕

心敬

経阿

智蘊

同

同

あやしくはて人のほても那 出願

あさすし風よりいづるや花をみ 同

かまじ見しあまらいつる少ゆき 同

あまなれもいづるとあまの風 同

さねたりと花のよのよすやひは 賢盛

ともあそそれえんさしやとあ 同

とあそそれえんさしやとあ 行助

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

あそそれえんさしやとあ 同

花をよき風を新瑞乃こころを成  
 りてあはれむとてしるく記書の目録成  
 一書とてくはるあはれしむあはれしむ  
 せしむとてあはれむとてあはれむとて  
 あはれむとてあはれむとてあはれむとて  
 せしむとてあはれむとてあはれむとて  
 あるとてしるくあはれむとてあはれむとて  
 松よりあはれむとてあはれむとてあはれむとて  
 風をよき風を新瑞乃こころを成

りてあはれむとてしるく記書の目録成  
 一書とてくはるあはれしむあはれしむ  
 せしむとてあはれむとてあはれむとて  
 あはれむとてあはれむとてあはれむとて  
 せしむとてあはれむとてあはれむとて  
 あるとてしるくあはれむとてあはれむとて  
 松よりあはれむとてあはれむとてあはれむとて  
 風をよき風を新瑞乃こころを成

まほしの花をよみてあはれ  
しるやまのちのほろほろのあはれ  
ふらちのふらちのあはれ  
花をよみてあはれよはれ  
みよよよよよよよよよよ  
かよよよよよよよよよよ  
花をよみてあはれよはれ  
世よよよよよよよよよよ  
新撰免竹林三入

めよよよよよよよよよよ  
うよよよよよよよよよよ  
花をよみてあはれよはれ  
しるやまのちのほろほろのあはれ  
竹林三入  
目よよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよ  
竹林三入  
花をよみてあはれよはれ





らんはらみ花よりせし目すや  
ちるれき昔よとて風は  
まらしきつらつらむらり那  
もつ花よりつらつらり那  
うすもあつらつらつらり那  
急ぎて松もつらつらり那  
もあつらつらつらつらり那  
たもつらつらつらつらり那  
あつらつらつらつらつらり那

まよとせしつらつらつらり那  
色もつらつらつらつらり那  
らつらつらつらつらつらり那  
う那とあつらつらつらつらり那  
らつらつらつらつらつらり那  
壁  
あつらつらつらつらつらり那  
あつらつらつらつらつらり那  
あつらつらつらつらつらり那  
あつらつらつらつらつらり那

うき世の世成るもくは乃色もくれ  
さうき世の世成るもくは乃色もくれ  
風もまゝいふくは乃色もくれ花  
さうき世の世成るもくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ  
さうき世の世成るもくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ  
まゝいふくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ

同 同 同 同 同 同 宗祇

まゝいふくは乃色もくれ  
風もまゝいふくは乃色もくれ花  
さうき世の世成るもくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ  
まゝいふくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ  
まゝいふくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ  
まゝいふくは乃色もくれ  
ゆきかたもまゝいふくは乃色もくれ

同 同 同 同 同 同



まの程さうなむさうりき花  
 花うりくろくつあはれあはれ  
 ありまのさうなむさうりき  
 うきうきうきうきうきうき  
 あり人のさうなむさうりき  
 いはれれれれれれれれれれ  
 ありさうなむさうりきうき  
 れれれれれれれれれれれれ  
 ありさうなむさうりきうき

同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 同 同 同 同 同 同 同

ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき  
 ありさうなむさうりきうき

同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 同 同 同 同 同 同 同

春記

一

あさすゝ花よひらなむいほふあ  
つふかのかはむうあふふふふふ  
たつてふふふふふふふふふふふ  
又やふんむうあふふふふふふ  
うはらうつら花よみさうりー々あ  
もよひかひふふふふふふふふ  
あやふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

回回回回回回回回回回回

あふふふふふふふふふふふ  
ふれふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ  
まふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふ

回回回回回回回回回回回

春記

一

藤原清浄光よりその命

花の香のつらやうに物乃月  
物乃心ほつちり乃花さり  
あつちりあつちりはつちり  
花さりつちりあつちりあ  
つちりつちりあつちりあ  
はつちりあつちりあつちり  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ

つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ  
つちりあつちりあつちりあ



るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

るくしあはれもさなるはに

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回

回



かろ今りぬまはくつ花の白く  
花をさくらにさるはくつ花の  
とよみさくらにさるはくつ花  
めもあやうくさる花の輝く  
何さ花をさくらにさるはくつ  
とよみさくらにさるはくつ花  
花をさくらにさるはくつ花  
ら花をさくらにさるはくつ花  
花をさくらにさるはくつ花

同 同 同 同 同 同 同 同

とつらつは花をさくらにさる  
花をさくらにさるはくつ花  
何さ花をさくらにさるはくつ  
ら花をさくらにさるはくつ花  
とよみさくらにさるはくつ花  
めもあやうくさる花の輝く  
何さ花をさくらにさるはくつ  
とよみさくらにさるはくつ花  
花をさくらにさるはくつ花  
ら花をさくらにさるはくつ花  
花をさくらにさるはくつ花

同 同 同 同 同 同 同 同





花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ

花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ  
 花のうらみ花のうらみ花のうらみ

りさささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ

りさささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ  
 さささささささささささささささ



みくらーの草のOnnawake Onnawake

あふのOnnawake Onnawake Onnawake

有漢鶴白

いほふーの草のOnnawake Onnawake

せと花のOnnawake Onnawake Onnawake

有回鶴白

うらふ草のあふのOnnawake Onnawake

有花のOnnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

有花のOnnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

有根のOnnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

のOnnawake Onnawake Onnawake Onnawake

陽別光のふり城をそふ向くとく  
るくろくろく

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

あーやの平に城をそ

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

龍田社をそふ向くとくろくろくろくろく

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

花をそふとくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく 日

まろくろくろくろくろくろくろくろく





御書

あつたにむすむす人たのむらり

曰

むすむすお若うもあつたむすむすれ  
魚裁

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす  
宗長

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす  
宗頼

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

御書

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

御書

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

あつたむすむすむすむすむすむす

曰

御書

御書







あはれなる花のさかすかに  
あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

あはれなる花のさかすかに

ちよやまをこもあまを乃夕月よ  
 きこりり花やりい木のあしの露  
 ころりわら花やむとくたくすえ  
 けしきりいりそまふ乃一あうか  
 きくわありわまきしん露の花のあ  
 花うかりーまやま種乃らううま  
 けりい入あうちと露のまういしう那  
 まねと今こまをまのそ乃若あま  
 うへーうあまいあひのらあはるな

花いこよ花よまけらよのあいのま  
 花も世よまけらぬまふやうの乃れ  
 ころあま乃乃あまもあれまらま  
 あれやまようつまのえまふ乃あ  
 ころまをん花をやらよのあきうあ  
 ながも花目を持うるれ乃あへま  
 花をえらううやあまられまふま  
 周桂あうてま向り花  
 安のまをうまをあま乃乃うま

あはれそむもいこふのたまふとく花の家  
香るもあつたてふは乃かき井戸  
花のう月あめまゝれのおさ戸うま  
とあのをいもどり乃香ゆむたう  
なやもあふさすあうううつけり  
香るもあつたてふは乃かき井戸  
花のう月あめまゝれのおさ戸うま  
とあのをいもどり乃香ゆむたう

園遊記の巻

くもさやともむらさね乃神の影  
花のう月あめまゝれのおさ戸うま  
とあのをいもどり乃香ゆむたう  
なやもあふさすあうううつけり  
香るもあつたてふは乃かき井戸  
花のう月あめまゝれのおさ戸うま  
とあのをいもどり乃香ゆむたう  
なやもあふさすあうううつけり  
香るもあつたてふは乃かき井戸  
花のう月あめまゝれのおさ戸うま  
とあのをいもどり乃香ゆむたう

の巻

の巻



あはれなきあはれぬ風乃ちゆひび  
昌休

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

おん墨若のまもあはれぬあはれぬあはれぬ

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬ

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬ

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬ

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

あはれなきあはれぬあはれぬあはれぬ  
曰

うほへち哉むらりと花乃月の庭 曰  
うもいほこりたもちあのかくくひ 曰  
うふ乃りくうくくくくくくくく 曰

越前より神奈川時分無形

うむらふありてもくも花のけ 曰  
うそ花ゆりともくあまのを 曰  
ちるくみくむ乃くく風もあ 曰

孝田坊府中よりとてとて一和ふふふ

うくくくくくくくくくくくく 曰

新地給庭のうくくくくくく

うくくくくくくくくくくくく 曰

子白落花

うくくくくくくくくくくくく 曰

永原子白

うくくくくくくくくくくくく 曰

松本万白雨ふふ

うくくくくくくくくくくくく 曰

永原子白十花



此中月うきまてかゝて風もろり 曰

鐘文と句乃乃あよととさてか乃字

う集とけさいつまうさ紀乃花の象 曰

周桂遊善

阿もほのやうはくうとくまのむ 曰

草唐舎 土清様いとさくくの何分

さ記もして花よあり乃とちえ氏 曰

月次神よ

後世のよとわととあけらるる家 曰

嵯峨周あお控影の月次一まよ

よある弦やとらあもむ乃書 曰

他名

くねて月花もさ紀あつことあうか 曰

独千句

ととあさくさ中らういとん花乃色 曰

同

花よふあひたまもあらる 曰

あふさかんたけえちのほ乃花 少中書



花とりのと珠のうらうらうらうら  
うはし結の花をちと世のきき  
らあもその心まはうらうらあ  
と記あそとく世とそあたらぬ  
風あげえ花をのなうねるをほし  
花をうらうらとあうらうら  
あまもははあまのうらうら  
あまもあまのうらうらあ  
らうらうらうらうらうらうら

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

花とりのと珠のうらうらうらうら  
うはし結の花をちと世のきき  
らあもその心まはうらうらあ  
と記あそとく世とそあたらぬ  
風あげえ花をのなうねるをほし  
花をうらうらとあうらうら  
あまもははあまのうらうら  
あまもあまのうらうらあ  
らうらうらうらうらうらうら

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

の巻中

四五七







心いふえそ言れぬまも花の色  
とよむとんたそん花の吉野  
籠いけいそあふもわつ音乃夢  
あ乃あまれさそんく花のみ  
まあうそあふれそ花のいろ  
花よりあき紀とあふく岩るるれ  
ち〜あまやら〜花のいろ  
いああ乃そあふそ花のいろ  
勝乃と〜あふ〜花のいろ

同 同 同 同 同 同 同 同

ゆんらりあふもと約〜花のいろ  
とよむとんたそん花の吉野  
心いふえそ言れぬまも花の色  
とよむとんたそん花の吉野  
籠いけいそあふもわつ音乃夢  
あ乃あまれさそんく花のみ  
まあうそあふれそ花のいろ  
花よりあき紀とあふく岩るるれ  
ち〜あまやら〜花のいろ  
いああ乃そあふそ花のいろ  
勝乃と〜あふ〜花のいろ

同 同 同 同 同 同 同 同

りばとそとれたとれれれれれれれれ  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 根のさうのさうのさうのさうのさうの  
 よめひかりさうのさうのさうのさうの  
 せうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの  
 さうのさうのさうのさうのさうのさうの

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回



ちりちり本屋のさるさる  
花乃さる花もあまたさる  
さる花もさるさる乃一樹  
一花さるさるさるさる  
花もさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
花のさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる

回回回回回回回回回回

さるさるさるさるさる  
花乃さるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさる

回回回回回回回回回回

かゝる物とからるふきも花のうら  
とこの世の世の世の世の世の世  
お梅とやうも物然るれをれ  
まゐてゑかすれゑかすれ花も  
月の照えくらふもくらふも  
ふもふもふもふもふもふも  
花をさすはさすはさすはさすは  
さすはさすはさすはさすはさすは  
花をさすはさすはさすはさすは

同 同 同 同 同 同 同 同

うは〜花のうら〜  
お梅とやうも物然るれをれ  
松風乃とやうも物然るれをれ  
花のうら〜花のうら〜  
あらしもやうも物然るれをれ  
次〜花のうら〜  
あらしもやうも物然るれをれ  
あらしもやうも物然るれをれ  
あらしもやうも物然るれをれ

同 同 同 同 同 同 同 同

〇六廿四

〇六廿四

あけくさなもさしむゆのさくらも  
ちまうりーもゆそんあいのさのま  
くねまうりーのあつらぬのけさ  
たのさよのーのまれ神さうれ  
くちまひさひなれこのさるるま  
物たのしきもまもあつらぬさ  
くらー根も末くたのまう末代  
よもーも乃たのさひさうへん  
はくたさうへんはくもあまんたのさ

同 同 同 同 同 同 同 同

拾ふくさなもさしむゆのさくらも  
あまうりーもゆそんあいのさのま  
くらぬのさよのーのまれ神さうれ  
くちまひさひなれこのさるるま  
物たのしきもまもあつらぬさ  
くらー根も末くたのまう末代  
よもーも乃たのさひさうへん  
はくたさうへんはくもあまんたのさ

同 同 同 同 同 同 同 同

花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる  
花の香はあけぬる花の香はあけぬる

回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

あゝあぢも昔りさうりともれね  
うきたやらさねんやあ乃たの種  
治中とさうしんらんたさあ  
いあされいあされいあさるま  
花の香の南乃いあさのあさ  
生あくさあされさうりさう乃あ  
とらあさらさうりさあ乃宿  
あささあさあさあさのさあさ  
あささうりさあさあさのさあさ

同 昌 同 同 同 同 同 同

花のささもされさあさあ乃を  
はあ乃さあさあ乃月乃さあ  
くさあさあさあ乃あさあ  
らあ乃さあさあ乃たのさあさ  
あさあ乃た乃さあ乃さあ乃  
あさあ乃さあさあ乃さあ乃  
あさあ乃さあさあ乃さあ乃  
あさあ乃さあさあ乃さあ乃  
あさあ乃さあさあ乃さあ乃  
あさあ乃さあさあ乃さあ乃

同 同 同 同 同 同 同 同

の春の中

の春の中

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

新巻

花は咲くははしむまのむらみ 日

昌休進書子句

花は咲くははしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

二月十日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

易者無乃

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

あまのついでにせむはしむまのむらみ 日

春

春

遊春

花をちらり入るる世の持し人  
日

結句原氏竟宴し無行

ありとあり花をくちくちの  
日

おと湯換

よーやち地鏡をこころ花のま  
日

ふりともやあまのともあつ花さうり  
心  
あつぬき成かんをめてくちま乃む  
ま仍

吉野あそび

みりー乃やもねも花をね都人  
日

ちのきあそ

げりき月花のさなれてあそび  
日  
多と風をふあつらふあひ那  
日  
花をねしてまよふれりゆま  
日  
もるちりて川をさへらるる  
日

あふ竹をあらうるさきり花の色 日

追名

花乃事さうけりも程とあさり成 日

防劬とそ饑別のゆり

ちさりあまや風ふお世の花さうり 日

お角田川

さうりいさうさやとさうさやとさう 日

教句帳春部下

題

橘一

梨屯三

棧五

永日七

燕二

黄代四

粧緑六

維子八

春部

春部



雲雀 九

蕨 十二

踯躅 十二

賞春 十五

墓 十

藤 十二

欵冬 十一

雜草 十六

梯 一

いしめちかひひるひの夕月よ

梯きくしめひるひの夕月よ

さしめちかひひるひの夕月よ

さしめちかひひるひの夕月よ

新撰免  
花色美ゆかりの夕月よ

のんたの夕月よ

花の夕月よ

能河

智蘆

智頌

同

行助

家初

同

あはれなるはなればなれに  
花をよそへてはなればなれに  
しるはなればなれに  
目にこそよそへてはなればなれに  
のちこそよそへてはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに

あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに  
あはれなるはなればなれに

白  
糸紙

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回

あはれなるはるの光

回





まよひのうらみはあはれしき世にそむむ 日

独吟の連をう

くさくさく人知れぬ花を記さくさく 日

か解りくもささくなく柳さくさく 日

まの交らさくさくもささくさくさく 日

さ我もねん花をハ子種さくさく 日  
宵栢

さほひあやむさくさくあやむ花さくさく 日

さくさくもさくさく花さくさく風は 日

さくさくさくさく柳あはれさくさく 日

さくさくさくさく花さくさくさくさく 日

さくさくさくさくさくさくさくさく 日

さくさくさくさくさくさくさくさく 日

花道の奥の奥のうらみ

さくさくさくさくさくさくさくさく 日

さくさくさくさくさくさくさくさく 日

風さくさくさくさくさくさくさくさく 日

花道のうらみ

く藤の葉のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花

同 同 同 宗長 同 同 同

の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花  
の葉のまじりたる花のまじりたる花

同 同 同 同 同 同 同 同

借...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



Handwritten cursive script on the right page, consisting of ten lines of text. Each line ends with a small circle or 'o' character.

Handwritten cursive script on the left page, consisting of ten lines of text. Each line ends with a small circle or 'o' character. The second line from the bottom has the characters '昌林' written vertically.

Vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or reference mark.

Vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or reference mark.

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

沛冠名千白卷名

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡列行田安橋名卷名

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々々々々々々々々々  
同 同

胡々々々

胡々々





日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日

川 抄 卷 三

日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日

日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日  
日 日 日 日

新

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

日

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

日

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

日

因防を極む申勢

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

日

燕

あのみとくくくくくくくくくくくくくくくく

宵柝

新

あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

宵柝

苗代

あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

日

あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

周極

あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

始巴

あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

日

〇春

〇春

かまろろよ秋とあめまう西宮  
あん秋もさうろあう舞くあふ  
昌記  
まゆ

於小田原

黄代ろろろろろのろろろれ  
曰

椿五

河よりろろろろろろろろろれ  
ろれろろろろろろろろろろろれ  
ろろろろろろろろろろろろろれ  
曰 宗茂  
曰

ろろろろろろろろろろろろろれ  
昌徳

お信貴と申すは信貴

ろろろろろろろろろろろろろれ  
曰

藤原上人真如

ろろろろろろろろろろろろろれ  
曰

あつとねろろろろろろろろろれ  
宗養

花のろろろろろろろろろろろろれ  
曰

美らろろろろろろろろろろろろれ  
治巴

粘練 五

壁  
かきくわて庭をくさあふ柳の如  
いあをふ花もあはれ日風とあ  
糸河をくさ成ちりりるき自の家

宗碩

永日 六

あつた日あつたきくわるのくさの如  
花もくわたりるさあはれ自の家

宗祇  
曰

閏三月のふらりかきくわ

ぶらりるさあはれ自の家

曰

伊勢より河をりー時

くさあはれ大庭をくさ自の如

肖栢

くさあはれあはれ自の家

曼哉

くさあはれ庭をくさ自の如

周徳

仙人のあはれ自の家

宗養

林乃香を月をあはれ自の家

曰

永日よふらりるさあはれ

宗巴





雑子八

ほうくしと物言ひならんは  
 室らちやくしと室ら錦すす  
 室らちやくしと室ら錦すす  
 室らちやくしと室ら錦すす  
 室らちやくしと室ら錦すす  
 室らちやくしと室ら錦すす

雑子九

夕にさるる花は  
 夕にさるる花は  
 夕にさるる花は

雑十

新撰

夕にさるる花は  
 夕にさるる花は  
 夕にさるる花は  
 夕にさるる花は  
 夕にさるる花は  
 夕にさるる花は

雑十一

雑十二

周禮題名

あしき聖もあつらんふかふか  
 すまはくはあはれはあつらんふか  
 とつ終つじ聖もあつらんふか  
 病も神よは母もあつらんふか  
 ともあつらんふかあつらんふか  
 ちくつあつらんふかあつらんふか  
 すまはくはあつらんふかあつらんふか  
 聖もあつらんふかあつらんふか

昌休  
 宗長  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同  
 同

蕨 上

<sup>竹林</sup>しんりらりらとあつらんふか  
 人のあつらんふかあつらんふか  
 おん  
 あつらんふかあつらんふか

紹巴  
 去仍

藤 上

あつらんふかあつらんふか

流りみじきつらき花の花  
ゆるゆるとほろひけり  
根をむくつとほろひけり  
ぬすむつとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり  
ゆるゆるとほろひけり

宗談  
日 日

花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より  
花より花より花より

背栂  
日 日 日 日 日 日 日 日

藤あし乃松やうままげらうの飛 宗牧  
 ままねく一らふのうさそ松の故 日  
 むそく流乃あまういあまうもあまうか 日  
 藤さねてあいらるさねたもあれ 日  
 さくしらやうらなむくつまもさくさく 日  
 りと終ひ乃まもあまうらうさく 日  
 あいあいのうさあまうく世世のあら 日  
 あまねわいく一さく乃あまうさ 日  
 あらうさあまうあまうのまのむ 周禮

又やらんあま終つるよあら乃む 昌休

河内太子堂修善院にて

暁く風かこさつるやま乃あら 日  
 おあまの若は紫子白守十藤 日  
 さねのあつもさくく飛やうのあら 日  
 くらさくさくさくあら乃まあひるま 日  
 あまうらうあまうらひら花のま 日  
 けさみよりままうくあら乃うらま 宗養  
 さくあまのあまのあまのあまのあま 日

河内太子堂

宗養

百枝乃ちもれしつるまのしら  
 日  
 ちりきしうけかあう記まうれ教  
 日  
 代くもるもむかひん松のしら  
 日  
 ちらあうらうやまのねと風  
 日  
 えだめらるるまきー松乃教  
 日  
 高うえやあまのまくのた盤  
 日  
 ちとをうりてとのなあーあのか  
 日  
 松をうれえとあら乃ちあひか  
 日  
 しらあうはあてともわあうら  
 日

管ふらみ〇せあをさうりうゆ  
 日  
 松乃ちうのまはまうれ乃あうら  
 日  
 書り教らとあをちう松さ  
 日  
 出列回系紹慈下向冠  
 日  
 ちらうえのゆらもゆんああうれ  
 日  
 高うえらうらあまうねあしゆし  
 日  
 松年まあああ  
 日  
 松うあありーはゆらああ  
 日

松年

〇

蹴躅

岩窟〜〜い〜き〜  
 菖〜〜ま〜  
 い〜  
 多〜  
 香〜  
 柳〜  
 少〜

多紙  
 肖栢  
 宗妙  
 周桂  
 昌休

此の西海より

知〜  
 ゆ〜  
 多〜  
 多〜

日  
 日  
 糸艱  
 日

款冬

新撰

多〜  
 多〜

新撰

新撰

なまら神そくしんやんもくろ白ひハ  
やんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
しんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
るらあひらく神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ白ひハ  
やんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
るらあひらく神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ白ひハ  
やんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ

多根  
宵栢  
日  
家牧  
日  
日  
日  
日  
宗根

やんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ

絶巴

言春 五

花そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
らあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
入あひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
らあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ  
はらあひらく神そくしんやんもくろ神そくしんやんもくろ白ひハ

心致  
宗初

新撰

言春

言春

窓へかたはけるもささげん花もバ  
 じゆらしてらあくまろまれふ那  
 ささげの枝あはまののらあすし  
 くらふあも花うあひくわは生うか  
 うら一はくさきくはくわくまふ  
 周 ころ花よはららわらうさうの那  
 くらして接くまははららう花さす  
 ちまきくよはらうささくまのま  
 壁 けくさよららわらあつわらまのま

くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ  
 くらくさくさあひくさくさくさ

宗旅  
 日 日 日 日 日 日 日 日



吹さらしよるるも春風ゆるりあ  
日

春風社うはな

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日 宵栢

ゆるり春風はあけのま  
日

春風入るまのま

ゆるり春風はあけのま  
日

春風社うはな

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

春風社うはな

ゆるり春風はあけのま  
日

ゆるり春風はあけのま  
日

栴列若多の曉應は仰せ同月

とくしんまをいしをむらきけい 曰

あまはとくしんまをいしをむらきけい 曰

二月盡唐申六

まはまをいしをむらきけい 宗碩

とくしんまをいしをむらきけい 宗教

あまはとくしんまをいしをむらきけい 曰

壬三月盡

あまはとくしんまをいしをむらきけい 曰

あまはとくしんまをいしをむらきけい 曰

あまはとくしんまをいしをむらきけい 周桂

あまはとくしんまをいしをむらきけい 宗養

報春 十六

風吹おきつとまをいしをむらきけい 行助

あまはとくしんまをいしをむらきけい

あまはとくしんまをいしをむらきけい

あまはとくしんまをいしをむらきけい 宗祇

うららむしと世にま風乃ち春来れ  
 ると世の風はちと春よ津の春  
 風やうららむと春のまはる  
 雲乃ちとあわらうとつる  
 猿もあはらうとつる

左様文法あり

あはらうとつるまはるつる  
 日

右様社法あり

あはらうとつるまはるつる  
 日

新あはらと世にま風乃ち春来れ  
 雲乃ちとあわらうとつる  
 まはるつるまはるつる  
 松乃ちとあわらうとつる  
 まはるつるまはるつる  
 春乃ちとあわらうとつる  
 日

まの向中よ源頼朝城よ

何の事かおぼしき事なるらん

おの東に頼朝九十歳の事なるらん

百の事かおぼしき事なるらん

書のことかおぼしき事なるらん

丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

八十の事かおぼしき事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

おの丹波の事なるらん

宗朝





松乃ちんばな  
 よきつらな  
 梅くつらな  
 釣つらな  
 山乃ちんばな  
 花乃ちんばな  
 虫乃ちんばな  
 鳥乃ちんばな  
 魚乃ちんばな  
 草乃ちんばな  
 石乃ちんばな  
 水乃ちんばな

山乃ちんばな  
 花乃ちんばな  
 虫乃ちんばな  
 鳥乃ちんばな  
 魚乃ちんばな  
 草乃ちんばな  
 石乃ちんばな  
 水乃ちんばな  
 松乃ちんばな  
 梅乃ちんばな  
 釣乃ちんばな  
 山乃ちんばな  
 花乃ちんばな  
 虫乃ちんばな  
 鳥乃ちんばな  
 魚乃ちんばな  
 草乃ちんばな  
 石乃ちんばな  
 水乃ちんばな





一斗のまじりたるもつとみたり  
 日のあやかりはくろきのつゆ  
 古くはさうらのまじりたれ  
 りえぬて捨くもさうらあーふ  
 くもりたれくろの朝のまじり  
 まりたりあひぬの松やみぬ  
 他人も移りたるまじりたれ  
 けさうらあひぬのまじりたれ  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

お節は海に十なり

くろのまじりたるもつとみたり 〇

民ははるさるもつとみたるの刻多程

くろのまじりたるもつとみたり

くろのまじりたるもつとみたり 〇

まはるはくろのまじりたるもつとみたり 〇

お節は海に十なり

くろのまじりたるもつとみたり 〇

お節は海に十なり

くろのまじりたるもつとみたり 〇

〇春分

〇五三

Small white label or piece of tape at the top of the left page.



Handwritten text in vertical columns on the right page, possibly in a cursive script.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or chapter indicator.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or chapter indicator.

